第1回「しまねナイスパートナー」一覧

※推薦書受付順、敬称略

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
1	かわべ まゆみ 河部　眞弓	江津市桜江町	・平成１１年、桜江町（夫の出身地）へ東京よりIターン。 ・平成１２年、いまゐネット(株）に入社し、インターネットwebマガジン『月刊しまねiwamiマガジン』の編集長を務め、石見地域の観光、定住、伝統文化などの情報を広く発信。 ・地元の無人駅に開設された『さくらえサロン』事務局長として、定住促進のための田舎暮らしツアーや地域おこしイベント企画・運営を行う。 ・平成17年、ＮＰＯ法人『結まーるプラス」を設立し理事長に就任。地域に点在する空き家の再活用や高齢者を悪徳業者から守る自衛ネットワーク構築など、地域の維持・活性化に尽力。(県民との協働による島根づくり事業)	・両氏の地域貢献に対する強い使命感や活動の姿勢は、地域住民が認めるところである。 ・夫妻の活動は、妻・眞弓氏の幅広い活動を、夫・安男氏が補佐するなど、これまで培ってきたお互いの能力を存分に活用し、協力し合いながら過疎のまちづくりに積極的に取り組み、地域のよき手本となっている。	江津市 （財）しまね女性センター
	かわべ やすお 河部　安男		・平成１１年、桜江町へUターン後、㈱温泉リゾート『風の国』へ勤務。平成１３年に支配人に就任し、以後風の国を基点として実施される体験交流事業等と連携し、観光交流人口拡大に尽力。 ・ＮＰＯ法人『結まーるプラス』理事として参画。 ・新生江津市の住民グループが発案した、市民主体で月１回開設される江津市特産市の企画・運営に尽力。		
2	わたなべ いくこ 渡辺　育子	益田市	・夫の農業経営を手伝うつもりではじめたが、ハウスの仕事を分担するようになる。 ・平成１３年に設立した有限会社「赤雁の里」の役員となる。 ・農村公園「赤雁の里」オープン後、農家レストランで地元野菜を使った料理を提供。 ・市内の祭りなどでも地元産品を用いた加工品など出品したりと地域活性化に貢献。 ・児童生徒の農業体験「サマー楽校」のイベントを企画。 ・Ｈ１１～Ｈ１７まで益田市初の女性農業委員として活躍。 ・平成１６年、毎日農業記録賞一般部門優良賞受賞(毎日新聞社主催)。 ・女性農業士	私財も提供しながら「赤雁の里」をオープンし、「土に触ることで人の心まで思いやる気持ちがもてる」と夫婦で協力し合いながら、地域に根ざした運営をしている。	益田市 地域振興部 地域振興課 （財）しまね女性センター
	わたなべ てつろう 渡辺　哲朗		・昭和５８年、県西部を襲った大水害で大きな被害を受けた益田市赤雁地区の、復旧後も耕作されない水田を見て、建設業の傍ら、耕作を決意。以後集落の大半の水田を耕作している。 ・平成６年頃から、地元の若者有志で「赤心会」を発足し、共同で農作業開始。 ・平成１３年２月、資源を活かした地域活性化をはかろうと有限会社「赤雁の里」を設立し、代表に就任。同年４月、農村公園「赤雁の里」をオープンし、体験・交流を通じて農業へ理解を深めてもらおうと活動。収穫祭などの企画により、地元地区民をはじめ多くの人がそこへ集う。 ・益田市農政会議会長、県農政会議副会長。		
3	もりふじ ひでこ 森藤　英子	安来市広瀬町	・安来市社会福祉協議会が実施している、「ミニサロン事業：在宅元気老人の孤独化を防止し、生きがいを提供」の重要性を深く認識し、町内に呼びかけて事業の立ち上げに夫婦で尽力。 ・ミニサロン開設後も引き続き、夫と共に二人三脚で企画・運営に主体的に関わり、地域づくりに貢献。ミニサロンは、月1回、交流会や介護予防研修を実施。 ・川柳・民謡などサークル活動にも熱心に取り組んでいる。	・「出来る者が出来る事をする」という、力が入り過ぎない、みんなが気軽な気持ちで長続きするよう、サロンの企画・運営に心されており、サロンの来る日をみんなが心待ちにしている。 ・夫妻は、熱い思いがあふれる、ほほえましいナイスパートナーである。	ミニサロンさくら会
	もりふじ げんし 森藤　現義		・ミニサロン開設後は代表として運営全般に関わり、地域のふれあい活動に貢献。 ・市のスクールバス運転士として、地域の児童や保護者の信頼も厚い。		

第1回「しまねナイスパートナー」一覧

※推薦書受付順、敬称略

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
4	杉谷（すぎたに） 良子（よしこ）	出雲市多伎町	・昨年まで勤めた看護師としての経験を活かし、ミニディでの血圧測定や独居老人の弁当づくりなどＮＰＯ法人ボランティアネットたきの活動に積極的に参加。 ・ゲートボールジュニア選抜チームの練習・大会への付き添い、選手の健康管理などサポーターとして、また、自ら選手としても活躍。	・夫婦で協力し、休みを返上して地域でのゲートボール活動を行っている。 ・年に1度は2人で旅行に出かけたり、散歩に行くなど、ほほえましいナイスパートナーである。	家族 （娘、息子、息子の妻）
	杉谷（すぎたに） 茂（しげる）		・多伎町ゲートボール協会会長。島根県ゲートボール協会監事。 ・ゲートボールの審判員1級を持ち、平成9年よりゲートボール島根ジュニア選抜の監督として、小学生から高校生までの技術指導・生活指導、全国大会への引率に当たる。 ・毎週のようにジュニアから高齢者までの指導を行うと共に、選手としても活躍。 ・ＮＰＯ法人風の子（風の子学習館）のサポートスタッフとして、子どもたちの体験学習活動を指導している。		
5	渋川（しぶかわ） あゆみ	松江市	・助産師、いっしょに子育て研究所所長。 ・夫の開業を全面的にサポート。自らも現場に出て妊婦さんの指導にあたる他、産後訪問、助産／看護学校への講師活動、学生の受け入れも積極的に行い熱心に指導する。 ・行政の子育て支援センターなど無い頃、産後のお母さん達がストレス発散出来る場を提供する目的で、お母さん同士の集まりを立ち上げ県内で最大規模のサークルとなった。 ・また執筆活動、県内の高校へ性の健康教育に出掛けるなど、活動の場は益々ひろがっている。 いっしょに子育て研究所ＨＰ: http://www.coso-ken.co.jp	・激務と思える毎日の仕事も計り知れない使命感と信念を持ってこなしている。 ・産後のケアや、お母さんたちのよろず相談に応じ慕われている。 ・互いに尊重し、自分の意見を出し合って物事を解決する理想の夫婦像であり、共に生きるということを多くの方にアピールしたい。	個人
	渋川（しぶかわ） 敏彦（としひこ）		・平成5年、地域の産婦人科医として開業以来、現状維持に止まらず、患者さんにとって有意義な医療を常に模索している。 ・産後1年目に子育てに奮闘するお母さん達を労う医院主催の同窓会を行っており、毎年心待ちにするお母さんが多い。 ・出産のほか、若者の性問題や更年期障害、PTAへ向けた講演など、自身のレジャーやプライベート時間を削って患者さんや地域のための活動に追われる。 マザリー産科婦人科医院ＨＰ：http://www.motherly.or.jp		
6	園山（そのやま） 土筆（つくし）	松江市八雲町	・１９６６年（昭和４１年）、「松江演劇同好グループ（仮称）」を結成。 ・１９６９年、劇団名を「劇団あしぶえ」に決定し、代表・演出・制作を担当。演劇を人々の暮らしの中へ浸透させるための演劇活動を進める。 ・夫の支援で「100人劇場」建設を決心し、１９９５年、八雲村立「しいの実シアター」が完成。 ・１９９８年から「八雲国際演劇祭」マネジングディレクター兼芸術監督として、約６００人のボランティアスタッフをリードして「演劇によるまちづくり」を進める。 ・演劇の持つ教育力をいかして、「表現授業」「コミュニケーション能力育成」を進める。	劇団あしぶえは創立３９年。結婚して３７年。 ・「しいの実シアター」の隣に自宅を立てることを決意し、ゲストハウス的に開放し、公私の区別なく訪れる人を夫妻で歓迎。 ・『演劇による地域づくり』という夢を追い続けてきた女性を、夫が対等の立場で支え続けてきた、現代のナイスパートナーである。	劇団あしぶえ後援会
	園山（そのやま） 茂（しげる）		・しいの実シアターの管理のサポート（見学者対応・敷地内の草刈・樹木整備・要人訪問時の接待）。 ・「八雲国際演劇祭」開催時のボランティアスタッフ（ハウス委員会委員として、自宅を開放しての審査員対応、特別来賓の接待）。 ・海外演劇祭の視察時のカメラマンとして、記録誌製作に参加。 ・劇団あしぶえ公演時に自宅を開放し、招待観客を１人で対応・接待。 ・地域の人たちに対して、劇団活動および演劇祭開催の理解を進めるための粘り強い説明と、感謝を表明。		

第1回「しまねナイスパートナー」一覧

※推薦書受付順、敬称略

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
7	田中（たなか）　桂子（けいこ）	鹿足郡津和野町 (旧日原町)	・認定農業者である夫幸一氏のパートナーとして農業経営に汗を流し、田中家の農業経営を分担。 ・榊生産の担当として月一回の商人榊生産組合調整会議に出席。 ・平成１４年7月から、議会推薦により町史初の女性委員として日原町農業委員会に参画。 ・地域においては婦人会長、若妻会々長を務め、中堅・若手女性の中核として活躍。	・何事につけても好奇心旺盛で、常に新機軸を模索する通称「しきりジジイ」の幸一氏が自由に飛び回れるのも、包み込むようなほんわかした性格でアシストするベストパートナー桂子氏の存在があってこそ。 ・夜盗のようにふいに襲来する若い野郎どもに、笑顔でふるまう手料理、酒の肴、その手際の良さには舌を巻く。 ・そんな人好きのする田中夫婦なのである。	津和野町 商人下自治会
	田中（たなか）　幸一（こういち）		・町内の専業農家の中核として、約３０年に及ぶお茶栽培では島根県№1を複数回受賞。 ・商人地域のおける榊生産立上げの中心メンバーとして尽力し、榊を地域の基幹産業に押し上げた。 ・タラの芽、こごみなど山菜栽培を手がけ、日原タラの芽生産組合（組合員は益田圏域を含む５１名）の組合長として、「日原タラの芽」を北九州市場のトップブランドに押し上げた。 ・自治会長、ＰＴＡ会長、商人集落子ども生産組合組合長等を歴任し、地域内外において様々な活動を精力的に行なうキーマンである。		
8	小泉（こいずみ）　祥子（しょうこ）	松江市	・山陰日本アイルランド協会の事務局を補佐し、小泉八雲を通じた松江市の文化観光の振興及び国際交流に積極的に参画。 ・ボランティアでプラバホールのオルガンサポーターのチーフを努めるなど、音楽事業にも寄与。 ・小中学生を対象とした「スーパーヘルンさん講座」こども塾に、企画段階からアイデア出しに協力。	凡氏が塾長を勤めた「スーパーヘルンさん講座」こども塾の期間中も、常に互いがサポートしつつ取り組むなど、自然な形で夫婦が協力し、役割分担しながら良い関係で活動している。	松江市
	小泉（こいずみ）　凡（ぼん）		・小泉八雲の曾孫として、八雲の作品を通じた日本と松江の文化を全国に紹介。 ・子どもたちが八雲の感性に触れつつ松江の良さを再認識し、将来的には子ども学芸員として松江の案内ができるような観光サービスの提案をするなど、多方面に渡り松江市の文化観光の振興に寄与。 ・山陰日本アイルランド協会の事務局長として、アイルランドとの交流など国際交流にも積極的に取り組む。		
9	高橋（たかはし）　晴美（はるみ）	浜田市	・農産物をテーマにした地域おこしを目標に、女性の感性を活かし助言。 ・石見地方の米のブランド化に夫婦協力して取り組む。 ・お袋のおかず計り売りの店「味菜」、こしかけ茶屋「くずの花」の立ち上げに積極的に活動し、現在も一員として活躍中（ふるさと島根定住在団のトライ事業採択）。 ・平成１７年度より、浜田市のブランド「のどぐろ」の商品開発に取り組む（ふるさと島根定住在団のトライ事業採択）。 ・地域女性の意見のまとめ役となっている。	・地域の生産者(特に若者)に夢を持たせる地域おこしの提案や実践活動を、常に夫婦共同で行い、実現化している。 ・山間地域と浜田市との結びつきを大切に考え、地域産品の合体による新商品開発や商品づくりの提案を積極的に行っている。	浜田商工会議所 経営指導課
	高橋（たかはし）　功一（こういち）		・農産物をテーマにした、地域おこしを目標に活動中。 ・石見地方の米のブランド化に取り組む。 ・お袋のおかず計り売りの店「味菜」、こしかけ茶屋「くずの花」の立ち上げの中心的関わりを持ち、現在も支援活動中。 ・平成１７年度より、浜田市のブランド「のどぐろ」の商品開発に夫婦で取り組む。		